

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 宮田 寛章17 年度(入学・編入)

<p>1.研究課題: ナイジェリアにおけるカリスマ派キリスト教徒の他者との関係性の構築</p>
<p>2.派遣期間: 平成 23年 11月 22日 ~ 24年 1月 22日 (62日間)</p>
<p>3.今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください 今回の渡航では、ナイジェリアにおいてカリスマ派キリストの信者が現実世界の間人や様々な霊的存在などの他者との関係性の構築の在り方について予備的な調査を実施した。信者への聞き取りから、カリスマ派教会内の礼拝や悪魔払いなどによって「悪魔化」される他者は、信者にとって変化しないものではなく、そうした他者表象によって信者と他者との関係が一義的に決裂するものではないことが示唆された。牧師の説教、聖書学、真のキリスト教徒とはいかなるものであるかという言説などを参照し、信者たちはカリスマ派キリスト教徒としての自己形成をおこないながらも、日々の日常生活のなかでさまざまな他者と出会い、さまざまな関係性を結びながら、日常生活における問題や願望と折り合いをつけていた。こうした、カリスマ派キリスト教徒としての自己形成にもとづく他者との関係性の構築の仕方と、日々の具体的日常生活のなかでの便宜的な他者との関係の在り方との二重性がカリスマ派の信者たちにみられることがわかった。</p>
<p>4.自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について 教会における儀礼実践や言説がどのように信者のキリスト教徒としての自己形成に影響し、それが他者との関係性にどのような影響を与えているかとともに、個々の信者の具体的な日常生活のなかでの他者との関係性の構築の在り方をさらに調査する必要があると感じた。これまでの調査から、カリスマ派としての自己形成に関わる言説や儀礼実践については多くの知見が蓄積されてきたので、今後は信者の日常生活における他者との関係構築の在り方をライフコースの聞き取りや日常的な実践の観察から明らかにしていく。前回の調査では、報告者の住居が大学の敷地内であったため、信者の日常生活に関するデータを得ることが物理的に難しかったが、今回はカリスマ派の教会がひしめくコミュニティ内に住みこむことで、信者の日常生活における他者関係に関するデータを重点的に得ることが可能となるだろう。</p>
<p>5.本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか? 留学という形をとることで現地の大学の研究者と議論をしながら、フィールドワークを中心とした調査を実施できたことで、短期間の渡航であったが十分な成果をあげることができ、大変有意義な渡航になった。</p>

署名 _____